

# 洛友會報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

## 時事隨想

洛友会会長 松田長三郎

① 自省・自戒の機 前号(57年7月号)にて記載した通り、母校電気工學教室は、来年は創立85周年になり、又洛友会も、創立30周年を迎えることになる。明治34年、第一回の卒業生を出して以来、五一八八名を数え、現存者は四二七六名。又講習所は、大正4年以來、昭和14年までに一二七八名、現存者は四四九であり、結局卒業生総数六四六六名、現存者は四七二五名を数え、全国各地は勿論海外でも活躍されて、我國發展のために、大きな貢献をされて来た。私は創立以來の先生方初め、教職員学生や卒業生の方々に深き感謝の誠を捧げる次第です。悠久な時の流れのなかで、85年は、必ずしも長くはないが、少くとも、一つの里塚である。5年・10年と区切って、過去を顧み、将来を考へることは意義あることであり、大切なことである。卒業生の

方々が、五年・十年を期して、会同せられて旧交を温ため、来し方や将来を談じ、決意を新たにしてい、又の日を約して帰って行かれる有様は、誠に頼母しく、私は各位の健康と活躍を心のなかで祈っている。卒業後、五年・十年と年を経る程に、国内も国際社会も、大きく揺れ動いて、今は正に激動の時期である。家庭においても、勤務や境遇においても、相当に変わってくるから、この区切りにおいて反省し自省することが大切であると思う。

② サッチャー英首相 去る九月十七日から六日間、我國の国賓として来朝されたサッチャー首相は、忙がしい日程を滞り無く終え、十二分の成果を挙げて、廿二日、香港借地の問題など、大きな問題を抱えている中国に向けて出発せられた。数年前、大平内閣時代、東京で開催せられたサミット

會議に來朝された時のスピーチにも感心したが、今度の動靜についても敬服する所が多かった。離日の前日、同首相の希望で行われたNHKの対談を聞いて、対日・対米・対ソその他政治・経済・外交・文化交流等の諸問題について、忌憚無き所信を卒直に述べておられたことは好感が持てたし、なかなかの政治家であると敬服の念を禁じ得なかった。

③ 財政非常事態 翻つて我國の失業者を抱え、ストも多く、国内的にも国際的にも、苦しい立場にある。今回來朝の目的の一つは、日産自動車工場建設の要請にあったが、一國首相の、このような熱意には頭がさがる。私が五十年前、初めて渡欧した時、英國は七ツの海に雄飛し、ポンドは世界の經濟を支配していたので、今昔の感、一入である。

④ 財政非常事態 翻つて我國の失業者を抱え、ストも多く、国内的にも国際的にも、苦しい立場にある。今回來朝の目的の一つは、日産自動車工場建設の要請にあったが、一國首相の、このような熱意には頭がさがる。私が五十年前、初めて渡欧した時、英國は七ツの海に雄飛し、ポンドは世界の經濟を支配していたので、今昔の感、一入である。

か、官吏の俸給一割を、減俸されたこと、思ふ。いろいろと反対の意見もあるが失政の穴埋めではあるが、協力したものである。嘗て、ケネディ米大統領は、就任演説の中で、國民が國に要請するより、何を為すべきかを考へてほしいと云つて共感を博たことがあった。

④ 新人 今、東京の国技館では、大相撲秋場所が、熱戦を繰り展げているが、新人が大いに力を發揮していることは、大変素張りしいことである。今迄は、横綱と言へば、強力無双、不敗の象徴でもあったが、今や横綱と雖も安心しては居られない。これは各界においても同様である。各種の企業においても、競争は益々激しくなつて來ているから、新たらしい新製品・新機軸を出して行かねばならず、しかも国内のみならず、今は世界を相手であるから、一層の努力が必要である。サッチャー首相は、我國の工業生産の立派さを認めているが、同時に、これらの基本原理由は、英國から出ていると指摘されていた。今後は、基礎的研究も大いに進展して行かねばならぬ。卒業生の皆さんは、大いに頑張つてほしい。唯、産業スパイの問題については、十二分の注意が必要である。

⑤ 國の安定 先年、大谷泰之

名譽教授が実行委員長として、京都で開催された國際照明會議は、大きな成果を収めて閉会したが、各國の代表者も、口を極めてその成果を賞讃した。その際、次回(一九八三年)は、ポーランドで開催することに決定されたのであるが、ポーランドの現状は、皆さるご承知の通りで、とても主催國として國際會議が開かれ得る情勢には無いので、オランダ開催になったようである。ポーランドと云へば、コペニカス初め、キューリー夫人や、音楽家ではショパンなど、名だたる人達が出ているが、今は政情不安定、大變氣の毒な状態にある。それに較べると我國などは、平和な安定な、自由な國で、このような國は、外には一寸見当たらない。

⑥ 台風シーズン 去る七月の長崎における大水害に次いで、台風18号は、各方面に、大きな災害を遺して、日本列島を縦断して、莫大な損害を与へた。今また、台風19号の接近が伝えられている。台風が来れば当然暴風と集中豪雨で、毎年、同じことが繰り返されて、生命財産・土地の荒廃・農作物の被害は莫大な額に上り、その修復に要する公共事業費も大きい。勿論、これによつておつている事業者も多いが、しかし結局は國費の無駄な浪費である。こ

れを何とかできないものか。遙か南方洋上に発生するこの台風の芽を、大きく発達するまでに、摘み取る方法を考へることが大切であるが、これに対して有効と考えられることは、今の所、原子力を活用する以外には無いと思はれるが、これには当然、放射能被害が伴うから、実現は困難であるから、ここ当分は、残念ながら、自然の暴威に従っているより外は無い。天然気象の人工操作としては、かつては人工降雨法など、小規模に実験されたことがあるが、今ではその後を断つている。

〔七十二才の奮起〕今朝、NHKのラジオを聞いてみると、七十二才の女性が、パリのソルボンヌ大学で博士号を取得するために渡仏されたと伝えている。この方は十五年前、五十五才で停年退職された際、この退職金で、十年間、パリに留学し、古典文学方面で、修士の学位を得られたと云うが、今回更に一念発起して、七十五才で、博士号を得られるとのことであった。この方は、この研究に生き甲斐を感じ、この高令を押しての生涯研究に対する熱意と気魄と決心には頭がさがる。みのり多い成功を祈る。私共もこの心掛けを持ちたいものである。

〔読書の秋〕時、恰かも秋気清澄のみのりの秋、心身ともに爽

快、読書、思案に最適の時期である。専門書・修養書・娯楽書等、なんでも心行くままに書に親しんで、自己修養に力めたいものであ

る。会員諸兄の御健康とご活躍をお祈り申し上げます。(終)  
(五十七年九月二十三日)

題 松田長三郎先生芳名即興

賀 詩

松 柏 翠 色 年 経 香  
田 鶴 来 啼 長 寿 賀  
長 身 瘦 軀 孤 高 色  
三 省 己 持 每 日 樂  
郎 々 名 声 学 界 遍

講大五年卒 立石亨 三作

洛陽に遊ぶ

昭和26年卒業 羽倉幸雄

今年7月7日から18日の12日間、中国電子工業部・電子技術研究院の招待により、北京・新郷・上海にある6つ 究所を歴訪する機会を得た。とくに北京の南約

六〇〇Kmにある河南省・新郷市にある電波伝搬研究所は筆者の所属する郵政省・電波研究所と研究交流を始めたばかりで、ここに5日間滞在して日本の電離層研究・電

離層擾乱と電波予警報・リモートセンシング及びミリ波伝搬の研究を紹介し、また現地の研究状況を視察して、今後の日中協力について討論するのが私の任務であった。

欧米諸国への旅行の際は仕事以外にも名所旧蹟を見学するのが大好きな私であったが、今回は専ら研究交流に重点を置き、講演のためのスライド五〇枚、ビュートラフ60枚を準備したことも判るように観光など考えてもいなかっ

た。しかし北京に着いて関係者とスケジュールの打合せをして見ると、北京では万里の長城、明の十三陵、故宮の参観、そして新郷では5日間の滞在のうち1日が洛陽(ロウオヤン)へのエクスカージョンに当てられていた。  
7月12日(月)朝6時、新郷駅から北京発蘭州行の急行列車に乗った、熊副所長、北京から回行している習氏と李通訳、それに私の4人が同じ軟席の包房に、そしてお付きのカメラマンなど4人は硬席にと総勢8名の洛陽行きとなった。新郷から南下すること約一時間、夏枯れの黄河を渡り、さらに下って鄭州に至り、ここから列車は西へと進む。中原と呼ばれた河南省であるが、洛陽への道は黄土の山々。山に横穴を掘って住む昔ながらの生活も珍しい。

新郷を出てから3時間余で憧れの古都洛陽に着いた。ここは東方紅トラクター工場で代表される河南省第2の大工業都市である。鉄道に沿って東西に広がる現洛陽市の東端に、洛河など三つの川に囲まれた旧市街がある。老城と呼ばれるこの地域は東周、後漢、曹魏、晋、北魏、随、唐、後梁、後唐の9つの王朝の首都であった。しかし、老城の辺りは完全に近代化されているとのことで、また市

東方にある中国最古の白馬寺は時間の中で訪問をあきらめた。結局洛南約10Km、伊河の畔にある竜門石窟と、関羽をまつる関林を訪問することとした。  
竜門は大同の雲崗、敦煌のものと並んで中国三大石窟の一つに算えられている。紀元四九四年の北魏の頃から宗代の始めまでに、一三五二の洞窟が掘られ、彫刻された仏像の教約10万體である。とくに六七二年唐代に彫刻された大仏像は高さ17mに及ぶ巨大なものである。柳の緑と石仏が美事に調和した伊河の風情はそれ京洛の嵐山を思わせた。しとしと降りやまぬ雨がさらに私の族情をそそる。  
中国三国時代の武将関羽の名は劉備、張飛と共に我々日本人にも親しまれている。魏・呉の連合軍に挾撃され、その子関平と共に戦死した関羽は中国民衆に永く愛さ

れ中国各地に関帝廟があるとい  
う。関林には関羽の首が葬られて  
いるとか。中国では皇帝の墓を  
陵、聖人・武人の墓を林（孔林・  
関林）、諸侯のそれを塚、平民の  
ものを墓と呼ぶとか。首塚の入口  
を閉ざした二枚の石板にあげられ  
た細い穴からアルミ硬貨を落して  
耳をすますと、チリンチリン……  
……とかすかな音が続いた。関羽  
の首が飛んで転がってゆく様子を  
思い浮べた。

洛陽の東南70Km、中岳嵩山麓に  
小林寺がある。現在中国で一番人  
気の映画「小林寺」を見て筆法の  
迫力を満喫したものである。この  
映画にも竜門など洛陽の名所が随  
所に出てきて面白かった。

さて、洛陽で今一つ忘れられな  
いものに唐三彩がある。現在でも  
洛陽周辺を掘れば、駱駝、馬、官  
女などの三彩焼きが出土すると  
か。昼食をとったホテルの売店で  
15元の三彩馬を買った。しかし竜  
門の河畔で同じものが4元で売っ  
ていたのには失望した。大きな箱  
に無操作に入れられた素朴な焼  
物、新郷のホテルで机上に飾って  
あかず眺めた。熊氏の選んでくれ  
たこの美しい三彩馬は私の目を楽  
しませてくれた。だけど、この馬  
は結局ホテルに残して帰った。毀  
れやすい唐三彩、研究所から贈ら  
れた青島製の貝殻絵の額と比較し

て後者を選んだ。  
幻の唐三彩に 残るが、学生  
時代から京の故郷として憧れた洛  
陽を訪問できて満足である。ただ  
現在の洛陽には、伊河の雨情の他

## 桂林紀行 ①

昭和七年卒 鈴木 茂

に京を思わせるものは何もない。  
只我々の心の中に9王朝の都洛陽  
の栄光が生き続けているだけであ  
る。

ある旅行社の年金ツアーに参加  
して、香港、広州、桂林を訪れ  
た。主目的は桂林であることは  
云うまでもない。参加者は三十一  
名で内訳は男子十五名、女子十三  
名で、私共も含めて三組の夫婦も  
入る。別に旅行社から若い男子社  
員が添乗した。九月十一日大阪空  
港を出発し十九日帰阪した。

九月十一日

午後の出発で、大阪発高雄經由  
香港行のJ A—D C—8に乗組  
む。機内は満席の盛況であった  
が、八割近くの客は高雄で降り  
た。現地時間の二一・一〇啓徳空  
港へ着陸した。内地では初秋の冷  
涼であったが、当地は盛夏の暑さ  
であった。

空港は九竜に在る。陳君と云う  
壮年のガイドが一行を出迎へた。  
同君は少年時代を大阪で育った由  
で、蹇者な日本語を話す。

九竜市街は英国風であり、中国  
人の居住区でもある。ミラマーホ

テルへ投宿した。ロビーで陳君が  
観光客のマナーについて講釈を始  
めたが、要するに、ボーイにトラ  
ックを運ばせたらチップをやれ、  
ルームメイドには枕金をおけ、客  
室外のトイレは有料と思へ」と云う  
ことで、相場は1HK弗45辛と  
言うことであった。この習慣は吾  
々にはなじみ難い。煩しい悪習で  
あると言える。香港はこの西欧の  
悪習も自由に輸入し定着させた。

客室は広さも十分にあり、バ  
ス、トイレ付、トゥーンベッドで冷  
房も利き外部の騒音は遮断され快  
適であった。

九月十二日

香港の観光は、ビクトリアピー  
クから始められる。専用バスで廻  
ったが陳君ともう一人の男子ガイ  
ドが助手として添乗する。ピーク  
は香港島の最高峯で高さは五〇〇  
m位であろう。自動車専用の海底  
トンネルを抜け九竜から香港島に

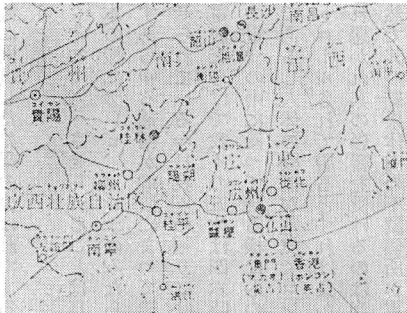
渡り、時代物のケーブルカーで山

頂に向う。麓駅には多数の乗客が  
行列をなして順を待つが、アメリ  
カの観光客らしい。山頂には展望  
台がある。

台上からは英領香港が一望下に  
収まる。香港島と九竜は十九世紀  
末の阿片戦争の結果英国領となっ  
たことは御存知のことであろう。

香港島は花崗岩の小島であり、  
西方中国本土に面した側の狭い海  
岸には高層ビルが櫛比し、官庁、  
金融機関、大企業のオフィスが軒  
を連ね、日本からも多数の企業が  
進出している。山腹が住宅地で山  
頂近くまで高級住宅が建てられて  
いる。

島と九竜との中間の狭い水道が  
仲継貿易の盛んな香港港であり、  
対岸が九竜の商店街であり、香港  
島と九竜が英国の直轄植民地で広  
さは約一〇〇km<sup>2</sup>であると云う。



九竜に続いて租借地新界が統

き、広さは約九〇〇km<sup>2</sup>あり、これ  
を併せた約一〇〇〇km<sup>2</sup>が英領香港  
である。此処に英人を主とした外  
国人、中国人、少数先住民の蛋  
民等の約五〇〇万人が密集して住  
む。当地の刻下の問題は新界の租  
借期限が約十五年後には満期とな  
り、中国へ返還される事で、その  
際には新界の住民は直轄植民地へ  
雪崩込んで来るだろうと云う事  
と、飲料水が不足で大部分を中国  
からの購入に迎がざるをえないと  
云う事らしい。

バスで島内を巡行した。路は山  
腹を縫って拓かれ、外人や富裕中  
国人の高級住宅が立並び、狭い谷  
間には競馬場もある。既舎はアパ  
ート式である。日本人小学校もあ  
った。島の南支那海に面した側面  
の北半分は高級住宅地であり、吾  
々にも馴染みのアグネス・チャン  
の住むと云う豪華マンションもあ  
った。海浜は遠浅で、レバルスベ  
イと云う海水浴場である。マレイ  
沖海戦で日本の海軍航空隊に撃沈  
されたウエイリスの僚艦レパルス  
が、この沖に碇泊したことがある  
ので、斯くは命名されたものらし  
い。当地は未だ海水浴シーズンで  
ビギニスタイルの美女が太陽に肌  
を焦す風景も見られ、山裾には高  
い観音立像が鎮座し玉う。

南半分は工場地区、庶民住宅地  
区であった。入江は先住民の蛋

民が水上生活を営んだ跡で、今は豪華な水上料亭が浮ぶ。蛋民は山麓の傾斜地に陸上生活を営んで居るが、豚小屋にも等しいひどい茅屋が彼等の住宅であった。生業は安物の土産物の立売り等で日々の糧を稼ぐらしい。優勝劣敗の競争社会の香港における彼等の生活は惨めその物であった。

東西両海岸の交通は屋根越への道路に便することになるが、山腹をぶち抜くトンネルの入口が見えた。所で山塊は固い花崗岩の難工事であるのでこれら請負ったフランスの会社は尻を割ってしまった、出口のないトンネルになっていた。

有名な范文虎のタイガーガードンにも立寄った。

香港島と九龍を結ぶ海底トンネルは固い岩盤を掘ると云う愚をさけて、海底に鋼鉄製の太いパイプを沈め水中熔接で接続し周囲をコンクリートで固めると云う工法で成功している。これは新日鉄を中心とした日本の企業連合が成し遂げたものであると云う。吾々日本人観光客にとっては愉快な話ではある。

九龍は商業地区で中国人の商店が軒を列ねる。西欧直輸入、宝石、装身具、時計等が無税で輸入されるので安く入手出来るのが魅力である。所で店では商品に一応

値札はついてはいたが、これは正札ではない。値切れば安くしてくれが、内地で正札買いに慣れた日本人には馴染まない。日本人は値切りせずには買わずに買われたいと願うが、鴨られて好い気持ちのする人はない。

### 日本人長寿の原因理由の一考察

講 大十年卒 中 村 秀 治

昭和五十七年七月十八日付の新聞に『長寿ニッポン世界一へ迫る』と題し女七九・一三才男七三・七九才、平均寿命さらに伸びそう。五十六年厚生省調査。の記事を読んで何故に日本人が年々其の寿命が伸びつつあるのかその原因一として日頃私が私なりの常識で考へている事を記してみよう。

人体の機能は電気に依ってコントロールされて居る、脳波や心電図、嘘発見器などが実用化されて居る今日、充分証明が出来次第で電気治療などにも色々な電気機器が発明開発され販売されて居る。

今から六十年程前同期に学校を卒業し直ちに北海道大学医学部助手として就職した電気技師の友人が居た、其の友人が電気メスの話しをしてくれた。それは腹部内の出来物(腫物)を切除するのに腹

吾々を案内したガイド連中も商売気たっぷりだ、陳君は土産物を次から次へと紹介し、助手はスナックをとりまくって後刻売付ければ、運転手迄商売に加る。これは彼等に公認された内職であるらしい。(次号に続く)

部を切開しないで電気でやる方法、即ち其の腫物の持つ特定周波数を見付け出して同調周波数を送って腫物を破壊して切開したと同様の効果を出すとの説明だった、これは六十年前の話で現在はどの様な方法で電気メスが使用されて居るか知らない。此の友人は笠田助三郎君と云って戦争中陸軍の稲田登戸研究所に徴用され論文未発表のまま医学博士の称号を受け終戦後別途申請して工学博士の号ももらい、自分で発明した高周波電気ミシンを使用してビニールのオモチャ製造工場を経営して居られたが先年昇天された。

亦もう一つの例、日露戦争に出征して満州の曠野で戦死した息子が母親の夢枕に立ったと云ふ様な之れに似た話しをよく耳にするがそれは戦地の息子と母親が同調周波数であるので戦地の息子の母を

思う一念の念波即ち電波が母の脳波に同調した結果の表はれであろうと思う。

そこで考へさせられることは日本の様にテレビ、ラジオのみならずあらゆる通信が電波によって達せられている今日我々の廻りには電波だらけで我々の五体は四六時中電波の中に浸って居る様なものであるし人体の機能が電気でコントロールされて居るとすれば良かれ悪かれ其の影響を受けるのは当然で其の結果体内の不調箇所が電気治療されて居ると考へてもよいと思う、今世界中で電波を最も多く発して居るのは日本で一番その

### 電気系教室の新館完成

電気工学第二学科教授 近 藤 文 治

既に本会報で屢々お報らせ致しました電気系教室の新館は六月末完成し、七月上旬から移転を始め、中旬にはほぼ完了致しました。図中の斜線を施した部分がそれで、延べ面積二七六〇平方米、鉄筋コンクリート造地上四階建てです。地下室は南側東西の棟にはありませんが、南北の棟にはありません。新館の完成によって、従来バラバラであった電気系の建物はほぼ一つのブロックに結合され、廊下で各建物が結ばれ、大変便利

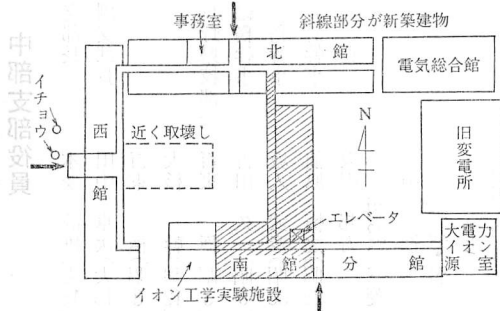
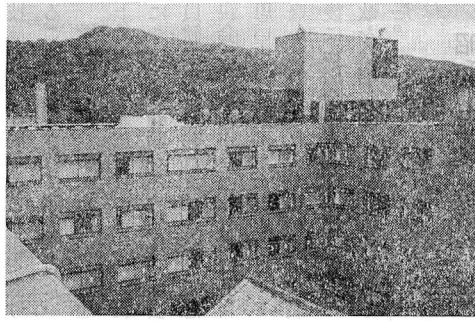
日本人が体調の調整を受ける結果日本人の寿命が年々伸び世界一の長寿国になったと思考し信じて居る、勿論其他医術の進歩医療機関の発達薬物の発見発明等に依る効果の原因もあるが世界一電波発信の多い日本が世界一長寿国となり之れからもある一定限度まではまだまだ伸びる事であろう。

#### 追記

洛友会々員の皆様右の『電波に依る体調々整での寿命伸長』を電氣学的に研究して頂き論理的裏付けして下さるお方が現われる事を期待致します。以上 (昭和五十七年八月十五日)

になりました。なお今後電気系の各建物を、図示のように、北館・南館・西館・分館及び電気総合館という名称で統一的に呼ぶことに致しましたのでご承知置き下さい。

新しい建物の外装は、先に完成したイオン工学実験施設と同様に、赤レンガ色のタイル張り、甚だしう酒なものとなっていています。写真は北館西寄りの屋上から東南を望んだもので、遠くの山は大文字山です。建物の色をお目に



かけることができないのは残念です。工学部の他の建物は、コンクリートの打ち放しで、外観はコンクリート地膚の白っぽい色になっています。ところが敢えて、電気

系教室の新しい建物の外観をレンガ色にしたのは、(昭和三十二年十月一日号)に会報(昭和五十三年十月一日号)に詳しく記しておきましたように、つぎのような理由によります。電気系教室の赤レンガ造の建物は、明治三十年(明治三十五年)に建てられたもので、(二階部分及び玄関ポーチ等は)大正十年に増設。京都帝国大学が明治三十年に創設されてから、最初に建てられた赤レンガ造の建物であります。東京大学の古い建物は大地震で壊滅したことを考えると、帝国大学史の中では最も古い歴史的建造物ということになります。それで、この建物を是非残したいとの強い希望が学内の一部にありました。しかし八十年の風雪に耐えた建物で、老朽化が進み著しく居住性が低下し、建物の一部は崩壊寸前の危険な状態に置かれ、そうでない建物も根本的な手入れが必要な状態になっていました。われわれは再開発と保存という矛盾する問題を解決しなければならぬことになった訳です。教室でいろいろ相談した結果、つぎのような解決策を考え、大学の各方面に要請しました。すなわち銀杏の樹に面した西側の二階建一棟(延べ面積一五四平方米)を外観はそのまま保存し、内部はコンクリート造りに改造することによって、建物の昔の面影を

残すと共に居住性を向上しようと考えたのです。この工事は未着手であります。将来をうなることを予想し、周囲の建物の色彩を赤レンガ造にマッチさせ、単に建物だけでなく、創建当時の雰囲気をも残すことができれば、教育効果を挙げることができると考え、新館の外装を赤レンガ色のタイル張りとした次第です。写真は新しい建物を示しますが、色をお眼に掛けられないのは残念です。外装のことばかり申し上げましたが、内装についても、高電圧実験のため二階吹抜けの実験室を作ったり、屋上に電波観測室を設けるなど、電気系固有の諸要請を満足させるなど細い配慮が払われています。また時代の要請といえますか、身障者に対する配慮もされています。いまさらおかし話ですが、電気系教室として始めてエレベータもつきましたし、暖房は古い建物も含めて集中方式になりました。冷房は全館という訳には参りませんが、実験室を中心に可なり多くの部屋が冷房されるなど、大学の施設も遅れ馳せながら近代化の恵に浴しつつあります。さて新しい建物の完成に伴ない従来電気系教室の事務室が、電気工学科・電子工学科・電気工学第二教室の三つに分れ、種々ご迷惑をお掛け致しましたが、この度こ

れらを統合し、電気系事務室として一本、場所も北館(旧電IIの建物)の支関入ったところに移転致しました。電気系三教室の一体化が名実共に完成し、皆様からご連絡頂くときも、電気系事務室と云って頂ければ用が足せるようになりました。また新しい建物ができたのを機会に、電気系教室の学内電話の番号を全面的に変えました。因みに電気系事務室の新しい電話番号は五二七〇(五二七三)です。教官室及び研究室への電話は交換手に名前をお伝え下さい。最後に今後の関連工事予定などについて申し上げます。まず西館の棟の外観保存内部改造工事は、目下施設部と交渉中ですが、建築費が通常の建物の少なくとも一・五倍かかるということで、仲々進展せず、未だに改築の目途がついていない状態です。また現在のところ中央実験室(赤レンガ造一階建)の西寄りの半分が残っています。これは工事中の電源を確保するため残されたもので、近く取り壊されることになっております。これが取り壊されると、西館を除いて赤レンガ建物はすっかりなくなり、建物の囲まれた二つの広場ができます。そのうち西寄りの広場は将来整備してしかるべき庭園でも作り、憩いの場にした

と、の夢をもっています。しかし、この夢もまず西側の棟の処置が済んでから後のことです。東寄りの広場はゴミ処理や野外実験など活動の場にしたと思っています。以上述べましたように、電気教室の八十余年の歴史の中でも特筆すべき工事が、お陰さまで面積的には殆んど終った訳ですが、電気教室の全体構想の上からは、入魂の工事とも云うべき西館の外観保存・内部改築という難工事を残しています。洛友会員におかれては今後とも格別のご声援を賜りますようお願い申し上げます。なおお暇の節是非お立寄りの上、新しい教室の様子を見て頂きたくお待ち申し上げます。

**昭和57年度 洛友会中部支部総会**

昭和57年度洛友会中部支部総会並びに懇親会は去る6月20日正午より名古屋都ホテル二階の間で開催された。本部より松田会長と池上淳一教授のご出席があり、当支部会員は各地から30名が集った。

総会では本多支部長の挨拶につづいて恒例の会務報告と会計報告が行われたが本年は特に支部活動の一層の発展を図る意味で長野県に

技部を、また同一職域に班を設けることが提案されて承認された。総会のあと、まづ松田会長と池上教授から本部並びに教室の近況についてのお話があつてから新会員歓迎会が行われた。つづいて懇親会に移ったが自己紹介では各自思い出の体験談や近況をユーモア豊かに披露されて楽しかった。最後に松田会長作詞作曲の洛友会の歌を合唱して午後3時に散会した。

昭和57年度  
中部支部役員

- 支部長 本多 静雄(大13)  
副支部長 田中 卓次(大15)  
長野県技部長 百束 極(昭3)  
総務幹事 古田 久一(昭6)  
庶務幹事 坂入 武彦(昭33)  
会計幹事 前原 恒之(昭28)  
班長 坂田 邦寿 (昭23、三菱)  
石川 進 (昭26、名鉄)  
横川 京次 (昭28、神鋼電機)  
萱島 与三 (昭30、日立)  
飯尾 博一 (昭31、中電)  
楯野 正雄 (昭32、富士電機)

評議員

- 水田 芳男 (昭37・東芝)  
白井 晋 (昭41・新日鉄)  
河村 敬秀 (昭44・トヨタ)  
伊与田道雄 (昭45・日本電装)  
31名 (氏名省略) 以上

計報

講大13年	阪口三千郎	57・3・25
昭2年	坪井好人	57・5・25
大3年	小林愛三	57・6・21
大12年	田村 修	57・6・24
昭6年	溝口 毅	57・7・6
昭2年	広瀬一夫	57・7・13

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

本号は、今年末会員名簿を発行しないのを補うため、本年三月卒業生のみ名簿特集を致しました。ご活用願えれば幸甚に存じます。尚調査不十分のため現時点では、住所変更、誤記、脱落等があるかも知れませんので、その節は是非事務局へご連絡下さい。私達事務局一同は名簿の正確なる事を念じていますので、各位のご協力をお願いします。(洛友会事務局)

電気総合月刊雑誌

閨氣評論

毎月10日発行 定価 600円 送料 60円

11月号予告 特集・我が国における揚水発電の概要 (11月10日発刊)

電力需要は常に変動する。その変動に即応して発電設備を運用する場合、発電機の特性に合った運用、全体から見た経済運用がなされる。具体的には、大型火力、原子力、流れ込み水力などを昼夜間休みなく稼働させてベース負荷を持たせ、過負荷時のピーク負荷は、中間負荷火力やダム水力でまず分担する。しかしそれでも夜間の余剰と昼間の不足が生ずるため、夜間の余剰電力を使って揚水発電をすることとなる。

我が国における揚水発電の最新の技術を知る上に、本号をご利用されたい。

1. 我が国における揚水発電の概要.....関西電力 橋本 安雄・林 茂明
2. 最近の揚水発電所の電気建設技術.....東京電力 三井 幹男
3. 最近の揚水発電所の土木建設技術.....電源開発 田中 仲生・堀 正幸
4. 奥矢作二段揚水発電方式.....中部電力 堀 文昭
5. 最近のポンプ水車.....日立製作所 岡田 昌康・横山 俊昭
6. 最近の発電電動機.....東京芝浦電気 向井一馬外
7. 揚水発電所の電気機器の特徴.....三菱電機 稲村 彰一・祖開 克二

10月号特集・鉄道技術と経営の焦点 (発売中)

内容

- I 鉄道旅客輸送と貨物輸送の特質とそのあるべき姿
- II 東北・上越新幹線の新しい電気技術
  - (1) 従来の新幹線との相違と新技術
  - (2) 対列車通信システム
  - (3) 列車制御システム
  - (4) 電力系統制御システム
- III 新しい鉄道
  - (1) 新交通システムの展望
  - (2) 宮崎実験線の現状
  - (3) 磁石式連続輸送システム
- IV 地方交通線ノート